

支援センター名	登別市体験活動ボランティア活動支援センター
所在地	〒059-0014 北海道登別市富士町7丁目33番地
連絡先	Tel 0143-88-1154 Fax 0143-85-9744 ホームページ http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/

事業の概要とポイント

学校週5日制に伴う土曜休業日を基本に、地域と学校が連携して市内15校の小中学校は、中学校区を単位とする7地区に運営委員会を組織し、「登別市子ども地域交流プラザ」を設置して、親子が触れ合える体験活動やボランティア活動等を企画・運営し、地域で子どもを育てる体験活動を推進している。

その企画・運営に当たって、各地区運営委員会から社会教育施設、市有施設、文化・スポーツ振興財団、社会福祉協議会及び漁業組合、室蘭海上保安部等、諸団体・諸関係機関への協力依頼があり、窓口として交渉及び連絡調整を行ってきた。

協力依頼をお願いした各団体・諸関係機関は、無料開放や巡視艇乗船体験あるいは出前講習会・研修会等を快く開催するなど、積極的な協力・支援体制を整えてくれた。

関係した学校・団体等の名称

- ・幌別中学校区 (幌別小学校、幌別東小学校、幌別中学校)
- ・鷺別中学校区 (鷺別小学校、若草小学校、鷺別中学校)
- ・登別中学校区 (登別小学校、登別中学校)
- ・登別温泉中学校区 (登別温泉小学校、登別温泉中学校)
- ・西陵中学校区 (幌別西小学校、西陵中学校)
- ・緑陽中学校区 (富岸小学校、青葉小学校、緑陽中学校)
- ・札内・来馬地区 (幌別小学校、幌別中学校)
- ・登別市文化・スポーツ振興財団、登別市ボランティアセンター、登別市ファミリーサポートセンター、室蘭海上保安部、登別漁業協同組合登別さけ・ますふ化場、登別市ときめき大学・大学院、登別市婦人短期大学、登別市赤十字奉仕団、登別市子ども育成協議会etc.

地域の現況・特色

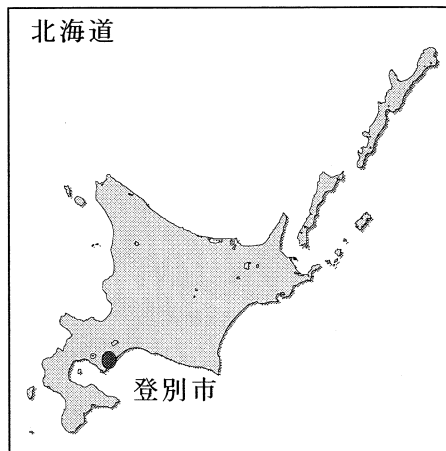
活動対象地域の人口 登別市 54,000人

観光地登別は、全国に名高い温泉郷であります。温泉のみならず登山に最適な山々、鮭が遡上してくる河川、風光明媚な湖、そして太平洋の海原を見渡せる大自然に恵まれた

地域である。

美しい山峡に囲まれた温泉郷を下りてくると伊達登別時代村、マリパークニクスが点在している。

また、西方には大型店が建ち並ぶ市街地は、太平洋沿岸に沿って広がり、室蘭市との境界へと延びた地形にある。「まちづくりは人づくり」を基本理念に市民総ぐるみで「子育て」を推進し、家庭・学校・地域・行政が連携を密に「子ども地域交流プラザ」を組織して第2土曜日を中心に、様々な体験活動の場を設定し、子どもたちの体験活動を支援している。



企画から活動までの経緯

【登別中学校区運営委員会】の例（さけの稚魚の放流体験及びさけの採卵体験）

4月30日（水） 第1回登別中学校区運営委員会開催

年間事業計画 5月24日（土）「さけの稚魚の放流体験」

10月11日（土）「秋の散策会」

11月 1日（土）「さけの採卵体験」

2月21日（土）「雪遊び体験」

3月 6日（土）「ヒカルの碁に挑戦」

5月 6日（火） 運営委員長、教頭、コーディネータと共に登別漁業協同組合へ行き、年間事業計画の説明及び事業への協力依頼を行った。

5月15日（木） さけ・ますふ化場で場長と実施方法について打合せを行い、持ち物、参加対象者、幼児は父母同伴等について話し合った。

学校としてのねらいは、『ふるさとの自然を自分たちで守り、生き物の生命を大切にする意識の高揚』であることを説明した。

5月16日（金） 学校は、自然ふれあい事業1「さけの稚魚の放流体験」の案内を児童生徒に配布して参加者を募った。

なお、放流する稚魚は、3年前に放流した稚魚が成長し、遡上したさけの卵をふ化した稚魚であることを付け加え、中学生にも呼びかけた。

5月24日（土） さけ・ますふ化場で実施要領の説明を受けた後、児童生徒59名、保護者23名、教師及び協力者5名の参加者が登別川に3万匹の稚魚を放流した。

11月 1日（土） 自然ふれあい事業3「さけの採卵体験とふ化場見学の集い」を実施

事例の展開内容（特色など）

11月1日（土）自然ふれあい事業3「さけの採卵体験とふ化場見学の集い」を実施。参加者は、児童生徒19名、保護者7名、教師2名、協力者2名

登別川のせせらぎを聞きながら、秋の散策を兼ねて往復5kmの道のりを歩き、ふ化場へ向かった。ふ化場では、見学コースと体験コースに分け、見学コースは、雄、雌に分けられているさけを見学したり、受精した卵に目や心臓が動いているところを観察したりしていた。

また、雄雌の見分け方、形や色による一次成長、二次成長の違い、何年で海から川へ戻るかなど、さけの生態について詳しく説明していただいた。

体験コースは、実際に雌のお腹から卵を取り出し、雄の精子をかけ合わせて、素手で卵を混ぜ合わせた後、卵を水で洗い流した瞬間に受精が終了していることを知り、とてもびっくりしている親子が印象的であった。貴重な人工受精の体験をした。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

- ・年間事業計画の段階で、ねらい、内容、方法等を明確にしておく必要がある。
- ・事前の打合せにおいて、効率的な時間配分を設定しておくことが大切である。
- ・体験させる内容について明確にし、グループ編成等に留意すること。
- ・貴重な体験活動を通して、新たな課題について早期に話し合いを持ち、次年度実施の改善を図っていくよう留意する。
- ・実施事業については、継続していくことが大切である。

評価

登別漁業協同組合『さけ・ますふ化場』の献身的な協力により、運営委員会がねらいとしていた『さけの採卵体験を通して、ふるさとの自然を大切に作る心を育てるとともに、生き物の不思議さや生命の尊さに気付かせる』の所期の目的を親子共々に感じさせることができた。

また、春の放流から秋の人工受精までのサイクルで実施したことは、参加者が若干入れ替わったものの、多くの参加者は、さけの一生に触れたような感じがあり大変好評であった。

次年度も放流から回帰までの流れを継続した体験活動を実施して欲しいという要望が強い。

なお、本市の各中学校区運営委員会は、それぞれの地域に即した特色ある体験活動を展開している。



